

NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構

理事長 井門 照雄



NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構（子チャレ）も8年が経過しました。副理事長の中西省三さんが病気でなくなられ残念でありませんが、志を継いで頑張っていきたいと思っています。

8年間の活動は、松山と八幡浜でスタートした「みんなでチャレンジ みんなのチャレンジ（みなチャレ）」活動から始まりました。

松山での活動は、中学生の参加は久米中学校を中心として道後中学校も加わり形ができつつありますが高校生は連続性を維持するのが難しく、大学生も継続のラインがうまくいかず今年は中学生だけの活動となりました。それにもかかわらず、子チャレのメンバーの奮闘と中学生の頑張りで成果を出すことが出来ました。ご苦労様でした。次年度からは大学生の確保を優先しその指導力と中学生の独創的な発想をミックスした活動ができたらと思っています。

八幡浜での活動は、年を経るごとに活動の蓄積ができつつあります。1つは八幡浜の沖にある大島での夕涼み会、子供のいなくなった島での子どもの活動は島の人たちを巻き込んだ活動になりそうです。また今年度の活動「キャンドルナイト in みなと」は、地域活性化と結びついた活動としてスタートし多くの参加と感動を得ることが出来ました。

「御五神島・無人島体験事業」も私たちが中核として発足した無人島チャレンジ実行委員会で活動を初めて早6年が経過しました。今年は、NHKが最初から最後まで取材し「にっぽん紀行」として30分番組として放送していただきました。子供たちの無人島での成長と、仲間との協力、そして生きる力を徐々に蓄えていく様子が表現できていました。

報道を通じて良き理解者や支援者が増えてくれればと願っています。また今までの支援者にもより具体的な理解ができたのではないのでしょうか、更に参加者のOBが、猪対策の夜の不寝番などにボランティアで参加して下さるようになっていきます。大変ありがたいことです。これからも地に足を付けた活動として育てていって欲しいものです。

高校生ヤングボランティア（ヤンボラ）の活動も通学合宿は、堀江地区に根差しつつあります。

また松山福音公園整備事業も4年が経過しアートパネルも「ありがとうの樹」[未来への花束]「happy balloon」と3枚かけることが出来ました。暗い高架下のイメージから明るく活動できる場所へと若い発想で着々と進んでいます。

さらに、今年度愛媛県が公募した「愛媛未来づくり協働提案事業」に応募し、他の団体、企業と協働して、高校生ボランティアの基礎調査を実施することができました。幸いなことに高校教育課も新規事業として「地域を担う心豊かな高校生育成事業」を行い、2月14日に「高校生地域活性化フェスタ」の研究フォーラムを実施しました。高校時代に、地域づくりやボランティア活動に係わる体験は高校生にとってライフスキルの向上と未来の自分づくりの基礎となります。これからも協力できるところを協議しながらともに愛媛を担う高校生を育成したいものと考えています。

「地域教育実践交流集会」も6回を数えました。子供にまつわる活動を通じて、学びあい、支え合い、助け合う環境ができてきたように思います。また今年度は若松さんの提案で「インタビューダイアログ」という新しい手法を用いました。常に向上しようとする気合を感じる事が出来ました。

昨年「学びのコミュニティ研究会」をスタートしています。子どもたちを認め、励まし、高めていくコミュニティを作っていくために、どうしたらいいのか。そのメカニズムを理解し、実践を理論と結びつけていくために2年間で7回の研究会を開催しました。子どもや大人の最高の学びの環境をつくるために今後とも努力していこうと考えています。

私たちの活動も多岐にわたってきましたが、子どもたちの可能性を信じ、また参加した大人たちがより一層自分を高めることが出来るよう、これからも活動を積み重ねていきたいと思っています。

終わりに、私たちの活動を理解し支持して下さいました皆さんにお礼を申し上げますと共に、これからもご支援をお願い申し上げます。